

千枚田だより

四谷の千枚田から
新しい息吹を

鳳来町長 穂積 亮次

いよいよ棚田（千枚田）

サミットが迫ってきました。二年前のサミット（恵那市）で2005年鳳来町での開催決定をいただいて以来、地元保存会を中心に町あげて準備に取り組んでまいりました。全国各地からお越しの皆さまに喜んでいただけるよう、なお一層の努力を尽くしたいと思います。

言うまでもなくこのサミットは、「棚田」の存在にあつたため光をあて、棚田の素晴らしさを広く国民各層に知らせるとともに、中山間地直接支払い制度の創設に大きな役割を果たすなど、画期的な運動として回を重ねてまいりました。

今年で十一回目を迎える

サミットですが、一方では大きな曲がり角にも立っています。自治体の財政難や市町村合併のあおりを受けて、次々回の開催地が決定にいたっていません。先般本町で開催された棚田全国協議会の幹事会の席上でも話題になりましたが、もう一度棚田サミットの原点に立ち返り、華美に走るのではなく、地道に続けられるものにしようかと確認をいたしました。

ちようど今年のサミット

分科会では、農作業現場の思いを語る「百姓のつどい」を特別に設けました。学術的、行政的な視点、あるいは都会人の視線だけではなく、棚田を守り、その地で

鞍掛の恵みと抱き豊鏡の同志が集う棚田サミット

舜二

暮らす者たちの苦労や喜びを、語り合おうとの趣旨からです。

これこそ棚田保全の原点だと思います。鳳来町でのサミットが、サミットの新しいあり方を率直に議論しあう場となれば、主催地側として、これほど嬉しいことはありません。どうかこの点も深くご理解いただきたいと思ひます。

また今回のサミットは、開催中の愛・地球博や「穂の国森林祭」の連携事業ともなっています。愛・地球博のテーマは「自然の叡智」です。言葉の難しさとは裏腹に、万博会場に足を運べば、世界各国・各文明に「自然の叡智」が息づいていることが理解できます。



全国棚田千枚田連絡協議会



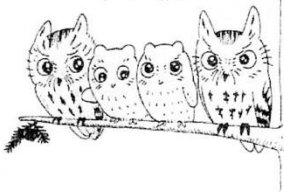
サミットまで
あと十三日

通行止めのお知らせ

四谷地区において九月二日（金）三日（土）にサミットが開催され、二日には1000人を超す関係者が四谷の千枚田を訪れます。バス二十数台での移動となり、周辺の道路事情から時間帯通行止めとさせていただきます。地区の住民の皆様には、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

鞍掛山麓の斜面に積み上げられた四谷千枚田のありさまは、まさに「自然の叡智」そのものを提示しているかの感があります。人間の知恵や耕作もまた、自然の叡智の一部分であることを教えてくれるからです。市町村合併を目前にひかえた2005年秋、さまざまに意味で私たちにとって大きな、大きな再スタートの時となるでしょう。関係各位の一層のお力添えを心からお願ひ申し上げる次第です。

鳥の県
このはづく
(仏法僧)



通行止め

路線名 県道鳳来東栄線

日時 9月2日(金)

滝上交差点からの交通止めは16時10分から18時10分まで

神田側からの交通止めは15時から16時40分まで

警備員の指示で多少お待ちいただくことがありますので、ご了承ください

景観整備

八月二十日(土)、サミットを間近に控え、連谷地区(公民館・コミュニティ・PTA・老人会・各組の皆さん・お助け隊・保存会等々)と「ほうらいクリーアップ事業」として毎年実施している役場職員も、県内外の方々に散乱ゴミのない清潔で快適な街「ほうらい」を見ていただくために清掃作業を実施しました。



ご苦労様でした



脱穀体験

八月十五日から二十一日まで、愛知万博瀬戸会場で棚田ネットワーク主催の地球の授業「一粒のお米から考える棚田の風景：脱穀体験」と題して昔の千歯扱、唐箕、唐臼などを使った脱穀体験を一般参加者を対象に、鞍掛山麓千枚田保存会の皆さんの指導により一日二回行いました。



参加者は昔の脱穀に挑戦、そして、四谷の千枚田で収穫した「お米」をお土産にもらい大喜びでした。

事例発表

わたしたちの千枚田

連谷小学校

今年も、十四名の仲間



力を合わせ、お米を作っている。地域の人々や自分たちで作った案山子に見守られながら、稲はすくすくと育っている。子どもたちが田に入って感じることはさまざまである。生き物がいる面白さや土石流の歴史に興味を持った。当日は、それぞれに感じたことや学んだことを劇風に発表する。

二日の現地発表には、中学生、お助け隊も参加してくれる。卒業生のこうした姿は、きつと何かを伝えてくれるに違いない。夏休みの午後、セミの声に負けじと練習の声がホールに響く。多くの人との出会いが待ち遠しい。

走る環境教室

八月五日・十二日、新城市役所主催の「走る環境教室」が四谷の千枚田で行われました。



新城市では、夏休み期間中に環境に対する意識の向上を図ることを目的に、市内小学校の児童とその保護者(各日二十六名の参加者)を対象に行われ、千枚田の自然と環境について、また、棚田を守る厳しい現実などを小山舜二が説明しました。

げなげな斬

⑨

棚田の歴史

1300年代には鞍掛山

を取り巻く塩津、小代、田内、神田(設楽町)と大代、古宿、大林の村々は当時「田内郷」と呼ばれていたらしい。村々は後世までそのつながりを持ち続けていた。

山懐の適度な勾配と水に恵まれたこれらの集落は、早くから田が開かれて、むしろ平坦の地より優位にあったと思われる。(抜粋：戦国ごぼれ話「戦国街道カシヤゲ峠道」第二話 竹下 弘)

こうしてみりやあ、鞍掛山の湧き水とちようどいい勾配で700年も、まっとも前から四谷の洞じゃあ、田んぼが作られておったちゅうことかのん：

投句函

青き穂を 揺らして渡る
風涼し 浜松市 水谷潤子
案山子にも 流行の衣装
学習田 豊明市 河合 満

行 平成十七年八月二十日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二